

令和6年度 大学の世界展開力強化事業 審査結果表

大 学 名	豊橋技術科学大学、東京工業大学	タイプ	A
事 業 名	グリーンイノベーション社会を牽引するグローバル半導体人材育成プログラム		
海 外 の 相 手 大 学	マドリード工科大学（スペイン）、トロワ工科大学（フランス）、ウルム大学（ドイツ）、シェフィールド大学（英国）		

〔評価コメント〕

本プログラム計画は、日本の学生に対してグリーントランスフォーメーション（GX）への意識が高いEUの若手研究者との密な交流機会を提供することにより、実践的で高度な半導体開発スキルに加え、グローバルな動静を俯瞰しグリーン社会を牽引する力を備えた半導体人材を輩出することを目的とする意欲的な取組である。さらに豊橋技術科学大学は開学以来40年以上にわたり、産学共創で集積回路講習を高度化しプロセス全体を俯瞰する高度半導体人材を持続的に育成・輩出してきた強みも持ち、本事業の実現性は高い。

本プログラムは、学部・大学院の連携も良く、参加学生の能力や希望に柔軟に対応するためのプランA、B、Cを用意し、シームレスな留学プログラムに仕立てている。いずれのプランを選択した日本人学生にも国内連携先の東京工業大学が提供する”Integrated Green-nix College”を履修することになっている点も高く評価できる。カリキュラムの最終フェーズとして、留学後の日本人学生が外国人留学生を指導する立場で共に学ぶ協働／共修学習活動の仕組みの導入についても期待が持てる。また、英日バイリンガル授業展開、TUTグローバルハウスによる多文化共生・グローバルキャンパスの実現等、全学グローバル化教育改革を断行し、更なる取組拡大も進めている。

さらに半導体関連企業等からの資金、50周年事業を通しての寄付金獲得等、補助期間終了後の本プログラムの自律自走化に向けた方策も既に学内で練られている点も高く評価したい。

一方で、カリキュラムの面では、当該分野で日欧の架け橋となるグローバル人材育成のために、相手国・地域の地政学、地域社会学、地域文化に関する理解が必要となってくるが、このような分野融合力を修得できるプログラムの充実化・具体化（現地における学修計画、外国人学生向けコース、企業インターンシップ等）について、本プログラム5年計画の中での更なる検討が望まれる。技術の細分化が進む次世代半導体集積回路技術分野において、当該技術を俯瞰的に見通せる技術の習得に加えて、人類普遍の価値としての地球環境に対する意識をグローバル・ネットワークの中で共有しつつ、20年後のグリーンな半導体開発を牽引できる真の「グローバルグリーンエレクトロニクスイノベーター」の育成を期待したい。

最後に、今回選定された貴学においては、将来の我が国と相手国との関係を見据え、質保証を伴う国際教育連携の先導的モデルに中心となって取り組む拠点大学であるということの意義とその責任、期待の重さを認識し、事業内容の実現に向け真摯に取り組まれることを強く要請する。